



皆さんの「関心、關懷、関照」に感謝

(わたしたちは皆家族)

董事長と奥様、同僚の皆さん、お元気ですか。

わたしは皆さんの気遣いと思いやりから感謝しています。

7月4日の晩、わたしは急におなか痛くなって病院へ行きました。医者の診断では急性胃腸炎の恐れがあるとのことと、入院して様子を見ることになりました。そして会社に連絡を入れて仕事を休みたいといいました。このとき、同僚の呂さんと静芳さんはわたしの病状をとても気遣ってくれました。また、翌日このことを知った董事長はわたしの母にお見舞いの連絡をくれました。わたしはみんなの温かい思いやりを感じました。



胃腸炎は物が食べられないので、点滴で栄養補給をして治療しました。水曜日には呂さんが病院へお見舞いに来てくれました。水曜日に退院して家へ戻ると、その日の晩と翌日の金曜日には董事長の奥様と静芳さん、家楨さん、恵鈴さん、谷藤さんと同僚が果物とチキンエキスを持って家まで来てくれました。また、同僚の陳輝倫さん、潘宝秀さん、李其華さんはわたしの母に果物を持たせてくれました。そして、わたしが家で静養している間、董事長は毎日わたしのことを気にしてくれました。わたしは皆さんのこうした気持ちに深く感動しました。わたしの母も「胃腸炎で休んだだけなのに、こんなにみんな気にしてくれて有り難いね」といいました。

合璧は董事長一家の長とする家族のようです。何か起きたとき、みんながいっしょになって思いやり助け合ったり、いつも温かい雰囲気包まれています。

今回の件でわたしは仕事を数日休んでしまいました。あとで思うと、少し恥ずかしい気がします。なぜなら、董事長が寧夏銀川の靈武職業学校に行ったときも胃腸の調子が悪かったにもかかわらず、みんなのことを思って頑張って最後まで仕事をしたからです。人は病気になるやっとな健康の有り難さがわかります。ですから、董事長が日頃から口にする「たくさん水を飲んで、運動しなさい」ということばを忘れないようにすべきだと思います。健康は本当に大事ですから。

わたしは今回皆さんの「関心、關懷、関照(気配りと思いやりで接する)」をもらいました。これからは、わたしも「関心、關懷、関照」と「感謝報恩、回饋社会(感謝に報いて社会に還元する)」を実践していきたいと思っています。「与えることはもらうことよりも幸福」。わたしも皆さんのものを与えていきたいと思っています。最後に董事長と奥様、同僚の皆さんにもう一度感謝したいと思います。本当に有難うございました。皆さんの健康をお祈りして。

台北合璧會計課同仁 陳雅萍

黄山見学で思ったこと

わたしは今回会社の旅行で黄山へ行きました。その中で董事長の物事をしっかり行う姿、豊富な経験、謙虚な態度などにふれることができたことを心からうれしく思っています。

緊張と充実、そして興奮の入り混じった三日間の見学は終わってしまいましたが、そのときに見た黄山の奇岩怪石や強風に耐える松の姿は今でもはっきりと目に焼きついています。それからもうひとつ、今回の見学では合璧の企業文化にふれることができました。合璧独自の精神ともいえる同僚たちの心と行動の美しさを感じることができたのです。これはわたしにとって今回一番の収穫でした。そして、それをここで皆さんにご紹介したいと思います。

一、禅の5Sの精神：わたしたちは黄山でもほかの団体にはまねのできない5Sの精神を発揮しました。食事のときはテーブル上の食器がぶつかって音を立てることもなければ、飲物やスープをこぼしてテーブルを汚すこともありませんでした。宿泊施設に到着したときは37人の団体が秩序を守って大声を出すこともなく、また、出発のときは部屋をきれいに整頓してから立ち去りました。そして登山の途中ではごみなどは残さず、残したものをといえ歌や笑い声だけでした。黄山には国内外から地位のある人たちははじめ、たくさんの方がやって来ます。そんな中、わたしたちは無名の一団体にすぎませんが、それでも最高に素晴らしい団体だったと思います。それは現地の人たちの驚きの眼差しからもわかりました。

二、謙虚一風景区での撮影：黄山には美しい風景がいたるところで見られます。そういう場所ではみんな我先争って写真を撮りたがるものです。しかし、そうした行為はほかの人の迷惑になります。「風景区はみんなのもの。わたしたちが独占してはいけません。写真一枚撮るのに二秒もあれば十分です。ほかの人にも撮影を楽しんでもらいましょう」。董事長は登山の前にこう注意しました。これを受けて、わたしは合璧の素晴らしいことを感じてきました。個人の利益優先の、株主の利益優先の現代社会において、みんなのことを考えてそれを徹底する企業がどれだけあるでしょうか。山の上で我を忘れて撮影している人々を見ながら、わたしはこう思いました。そして、すぐそばにこんな素晴らしい謙虚な心を教えてくれる年長者がいることを幸せに思いました。わたしは合璧人であることに強い誇りを感じています。

三、黄山松の精神：登山コースは全長9キロ。董事長は団体を率いて先頭を歩きます。途中、董事長は何度も足を止めてわたしたちに黄山の親愛のし方を説明してくれました。険しい山道に沿って行くと、そこには大きな黄山松の姿。黄山は美しい景色だけでなく、さまざまなことを教えてくれます。黄山で有名な黄山松は厳しい環境の中でも不屈の精神で固い花崗岩の間から峰頂や崖壁に生えています。その生き生きとした力強さあふれる様子は本当に人の心を動かします。わたしたちの合璧も黄山松のように逆境にも負けない強い精神で今日の姿を築いてきました。決して投機経営に走らず、2009年の世界金融危機のときでも利益を上げてきました。このほか、黄山には「團結松」と呼ばれる古くて大きな松の木があります。「團結松」は固く地に根を張った根から伸びる幹が途中で5本に分かれ、それぞれ緑の葉を茂らせる珍しい木で、その姿はまるで5人の兄弟がお互いに支えあっているように見えます。そんな「團結松」を見て、わたしは会社と董事長の関係を連想しました。董事長は常に根が栄養を送るように自らの経験をわたしたちに伝えます。こうして会社は発展を遂げてきたのです。

今回の黄山見学は黄山の雄大な景色や奇岩怪石を鑑賞しただけでなく、仕事や生活、さらには人生の哲学ともいえるべき事柄を多く学ぶことができました。これはぜひ今後の仕事の中で活かしたいと思います。そして最後にもう一度、こんなに素晴らしい機会上海合璧電子電器有限公司と与えてくれた会社に感謝したいと思います。上海合璧設計課同仁 張玉

中国201-805上海市嘉定区安亭鎮安亭鎮路318號
TEL: +86-21-5960-5468

董事長は登山の前にこう注意しました。これを受けて、わたしは合璧の素晴らしいことを感じてきました。個人の利益優先の、株主の利益優先の現代社会において、みんなのことを考えてそれを徹底する企業がどれだけあるでしょうか。山の上で我を忘れて撮影している人々を見ながら、わたしはこう思いました。そして、すぐそばにこんな素晴らしい謙虚な心を教えてくれる年長者がいることを幸せに思いました。わたしは合璧人であることに強い誇りを感じています。

感謝、感動、感知

2011年7月24日から26日まで、董事長、林經理、魏可心さんとともにハルビンへ行く機会がありました。わずか2日の短い時間でしたが、この中でわたしは「感謝、感動、感知」ということを実感しました。ここではこれについて、皆さんにご紹介したいと思えます。



24日の昼、ハルビンに着くと、ホテルに荷物を置いたあとわたしは頼有才さんを訪ねました。頼さんは60歳でハルビン工業大学の教授を退職したあと66歳で脳卒中を患ったため、84歳の現在、体の自由が利かなくなっていますが、頭はしっかりしており、知恵とユーモアあふれる話をしてくださいました。今から62年前、蒋介石体制に強く反抗し、台湾を離れてハルビンへ移り住んだのですが、この間台湾に残した親族に被害が及ぶことを恐れて、彼らとは表立っての連絡を完全に絶っていました。まだ母が生きていたとき、隠れて手紙を送ったことがありました。母はこの手紙を読んで涙したそうです。頼さんは黒龍江省のオリンピック副主席を務めたこともあります。彼の奥さんはハルビンの人で、1954年に東北三省の走り高跳びの代表選手に選ばれて全国大会に参加、当時の中国記録で優勝した実績の持ち主です。

今回どうして頼さんを訪ねたかという、頼さんは董事長の従兄弟に当たるからです。ふたりが話しているのを聞いて、わたしは過ぎた日の中でも決して色褪せることのない感謝の気持ちを感じました。頼さんは子供のころ、董事長のお母さんの弟に当たる董事長のお父さんのことをとても可愛がっていたそうです。こうしたことをお互い、感謝の気持ちとともに今でも覚えていました。また、頼さんが話している間、奥さんはそばで頼さんの腕から手にかけて優しく撫でていました。脳卒中を患った頼さんの血行をよくするために。そこには長年連れ添った夫婦の愛、そしてそこから生まれる感謝の気持ちを感じました。

頼さんの話でわたしの印象に残ったのは、ユーモアたっぷりの頼さんがまじめな顔で董事長に「合璧流を見ましたが、これらの内容や普段の会社の理念はまとめて何かの形にするべきです」といったことです。わたしは驚きました。「知者は同じことを考える」ということばがありますが、その通りです。というのは頼さんがいったのは董事長が日頃からいう「企業禪師」そのものだったからです。これは董事長独自の経営に対する文化や感謝の物語を多く掲載したもので、合璧にとってのバイブルであり、伝典でありコーランでもあります。

次にわたしたちは姚教授を訪ねました。姚さんは国際的な肝臓病研究組織の理事委員を務める方です。十数年前、合璧の顧問だった橋本さんを診てもらった縁で知り合い、

今回は林經理のお兄さんの病気の件でアドバイスをもらいに来ました。姚さんは「董事長の感謝に報いて社会に還元するという理念や行動には感動します。それに従業員だけでなく、その家族のことまで親身に思うことはめったにできることではありません」といいました。わたしは姚さんの話を聞きながら、董事長のことばを思い出しました。それは「従業員の家で困難な問題が起きたとき、わたしはすぐにどうやったら力になれるかを考えます」というひとことと、そして、そういつたときの董事長の口調や視線、手振りあはつきりと頭の中を過ぎりました。また、姚さんは合璧流を読んだり董事長の話の聞いたりしたあとでこういいました。「合璧は規範的な企業です。利益を追求するだけでなく、それを多くの人のために使っているからです。中国の事業家の10%から20%がこのような考えで会社を経営したなら、中国という国は素晴らしい発展を遂げるでしょう」。

このほか、姚さんは82歳の高齢にもかかわらずとても健康なのに驚きました。姚さんは「国が国民に対して病氣予防の意識を高め、適切な時期に検査することをもっと呼びかければ、現在のように80%の財産を亡くなる三ヶ月前に使うということもなくなるでしょう」といい、多くの病氣に関する話をしてくれました。わたしは、若い人は病氣になってから検査する、小さな病氣は放っておくなど健康に関する意識があまりにも欠如していると思います。姚さんの話を聞いて健康に対する意識をもう一度考え直しました。もうひとつ、わたしは以前「運動は無駄」と考えていました。1時間運動するなら、その時間勉強したほうが良いと思ったからです。しかし、姚さんの話を聞いたり、董事長がよくいう健康を重視する考え方を思い出したりしたとき、それはおかしなことに気がきました。皆さんも年長者の指摘する健康重視の考えをぜひ実践してみてください。

姚教授を訪ねたほか、いくつかの観光スポットにも行きました。印象に残ったのは伏羲加莊園です。ここには芸術性の高い彫刻がいたるところにありました。それらを見て、わたしは会社にある18点の彫刻を連想しました。これらの彫刻は合璧独自の文化を表したもので、ほかの会社、特に中小企業には見られないのです。また、伏羲加莊園の設計はヨーロッパの雰囲気にあふれています。これを見た董事長はお気に入りの様子で、会社の幹部たちに向かってこの機会にしっかり見ておくようにいいました。

わたしにとって今回のハルビン行きは多くのことを学んだというより体験したという気持ちです。そして董事長のひとことを深く実感しました。それは「知識と経験の集約は狭義の知恵にすぎない。広義の知恵はさらに高い次元にあり、自らの体験によってのみ学ぶことができるものである」ということばです。最後にこのように素晴らしい機会を与えてくれた会社に感謝したいと思います。

上海合璧 總務 李高燕特助
台壁は我等温もりの家；我は台壁を愛し、台壁は我を愛する；關心關懷關照 同心同步同調！



姚教授夫妻と記念撮影

